

小矢教育委員の再任について

大分県議会の同意を得て、本日小矢文則氏を教育委員に再任いたしました。

今回の教育委員の任命については、いろんなご意見がありました。私自身本当に大分県の教育の再生のためどうするのが一番よいのかを熟慮の上、判断いたしましたところ。今日は、その思いを県民の皆様にお伝えしたいと思います。

教育委員選任の選択肢は二つあったと思います。

一つは、新しい人材の下で、教育改革をやり直すことです。あれだけの不祥事があったのだから、この際人事を刷新して新しい気持ちで改革に取り組むべきだというご意見も多数伺いました。いわばゼロからの出直しということだと思います。そしてもう一つの選択肢は小矢氏を再任し、現体制で引き続き改革を進めるということです。正直私も思い悩んだところですが、後者を選択しました。その最大の理由は、今回の教育委員会の問題は、大変根深いものであり、課題も広汎に及ぶもので、これに立ち向かい、改革の実をあげるためには、しっかりと調査し、問題を把握し、改革の方向性を定めた小矢氏を含めた現教育委員会に引き続き取り組んでもらうのが一番大事だと考えました。険しい道のりだと思いますが、改革を継続・断行し、教育を再生することこそ、今、必要なことです。人を替えて出直しというのも一つの考え方ですが、むしろそうすることによって改革の取り組みがなおざりになったり、遅れたりすれば、それこそ県民の皆様申し訳ないと思ったところです。

それにしても、20名の採用取り消しや自主退職までありながら、小矢氏を再任するのでは、不公平ではないかという意見も伺います。教育委員会としては、調査の過程において、採用試験の得点が不正に加算されていたという事実が明らかになった以上、正すべきは正すために、断腸の思いで厳正な処分を行わざるをえなかったと思います。他方、本来採用されるべきであったにもかかわらず、不正行為のために不合格となっていた方々が採用されたということも忘れてはなりません。もし、教育委員会がこの処分を

行わなかったならば、大分県の教員に対する不信が残るとの強い思いがあったと思います。教育への信頼を取り戻し、改革を進めるためには避けて通れない過程でした。私は、教育委員会の措置については、そのように理解しております。

もとより、このような事態を引き起こした職員は許されるべきではなく、懲戒免職を含む厳しい処分を行ったところです。

さらに、小矢氏が不正任用に関与したのではないかという疑問をあげる方もおられますが、これについては小矢氏自身が不正任用を依頼したことは断じてないと答えています。告発を受けてこのことを調べた検察庁も3月31日不起訴処分の結論を出しています。そして何よりも小矢氏はこの問題が起こるや、正面から調査を行い、教育改革にも先頭に立って真摯にかつ誠心誠意取り組んでおります。その誠実な仕事を高く評価しており、今後実績を出して県民の期待に応えていくものと確信しております。

繰り返し申し上げますが、昨年の教育委員会の不祥事は、教育行政に対する県民の信頼を失墜させるものであり、大分県の長い教育行政の歴史の中でこれまでにない汚点を残したものと返す返すも残念でなりません。私も県政全般を統括する立場の知事として大変申し訳ないと思っております。今大切なことは、「知・徳・体の整った人格を涵養し、子供たちの夢を実現させ、ひいては地域や国の発展に貢献してもらう」という教育の使命に立ち返り、現場の教職員も一体となって、教育改革を着実に実行し県民の期待に応えることです。

改革はすでに始まっており、停滞は一瞬たりとも許されない状況です。教育委員会には待ったなしの教育改革に全力で取り組んでいただきたいと考えています。私も全力で教育改革を支援してまいります。

平成21年4月1日

大分県知事 広瀬勝貞